

# 農地・水・環境保全だより 第10号

編集・発行 三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

～はばたこう！地域みんなの力で！～

## 農地・水・環境保全向上対策「みえのつどい“2011”」

平成23年11月5日(土)三重県総合文化センターにおいて、「農地・水・環境保全向上対策」に取り組んでいる活動組織及び県内外の関係者約700名が一同に介し「～はばたこう！地域みんなの力で！～」をテーマに農地・水・環境保全向上対策「みえのつどい“2011”」を開催しました。

本つどいも4回目を迎え、活動組織のより一層のステップアップを図れるようプログラム内容も豊富に、又次世代の子供達に農村に興味をもってもらうようコンクールの表彰など新たな企画を盛り込み、参加型のイベントとして開催しました。

第1部の第1ギャラリー座談交流会では、ワールドカフェ方式により活動組織のメンバーや大学生、高校生、県外より愛知、岐阜の活動組織の方々も交え約220名がこれからの農村を考える「次世代リーダーの承継」、「活動の自立に向けた体制づくり」について語り合いました。



グループの会話に耳を傾ける鈴木知事

交流会が始まると鈴木英敬三重県知事や農地・水・環境保全向上対策協議会長の渡邊農水商工部長も地域の実情や課題について各グループの会話に熱心に耳を傾けられ直接地域の状況を肌で感じていただける良い機会となりました。



渡邊農水商工部長 挨拶

午後からは会場を大ホールに移し約600名の参加者を得て第2部が開催されました。まず主催者である渡邊農水商工部長が「皆さんの活動は三重県の農業、日本の農業を支える非常に重要な活動であると認識している、4年目を迎え現在315組織、約15,000haの農地をこの事業で支えていただいている、今後益々この事業は重要となる、県もっ



鈴木知事 挨拶

かりサポートしてゆく」との挨拶があり開会を宣言されました。

引き続き来賓として臨席された鈴木英敬知事が県内外からたくさんの参加をいただいたこと、5年目をむかえ活動に携わられた皆さん、それをサポートしていただいた地域の関係者の方々にお礼と感謝の意を述べられた、又午前の座談交流会において皆さんの姿に他の事業にない本気を感じた、そして皆さんの意見を頂き今後しっかり取り組んでいきたいと心強い言葉を頂きました。



キャラクターコンクールで入賞された皆さん

三重県では「NPO法人メダカのコタロー劇団」と連携して、子供達に自然豊かな農村に住んでいる生きものを大切にし、農村を身近に感じてもらう色々な取り組みを行っており、今年はその一つとして愛着のあるキャラクターコンクールを企画し、県内の小学生、幼稚園児の皆さんから169名の応募が有り、「メダカのコタロー劇団賞」、「水土里(みどり)ネットみえ会長賞」、「三重県農村地域資源保全向上委員長賞」が選ばれ子供達に賞状と記念品が贈呈されました。

三重県農地・水・環境保全向上対策協議会



受賞された団体の皆さん

引き続き、優秀活動団体の表彰に移り表彰を受ける5団体の活動内容と受賞理由を映像等で紹介され、審査員の講評の後、農地・水・環境保全向上対策協議会長の渡邊農水商工部長よりモデル活動賞、パブリシティー賞、三重県農地・水・環境保全向上対策協議会長賞の賞状と記念品が授与されました。又本年で5年目を迎えたことから新たに「三重県知事賞」を設け、鈴木英敬三重県知事より菰野町の「田光資源と環境を守る会」に賞状と記念品が授与され、鈴木知事、渡邊会長、長田議員を囲んで受賞者代表の記念撮影が行われました。

休憩を挟み、「NPO法人農家のこせがねネットワーク代表理事CEO」宮治勇輔氏による「みえの農村元気化計画」と題した講演があり1次産業をカッコ良くて、感動があつて、稼げる3K産業にする為、新しい農業標準作り挑戦し、色々な取り組みを行っている、はじめの1歩が大切であると情熱を込めて訴えられました。

その後、三重テレビ放送で毎週金曜日夜 8:00 ~ 8:55 に放送されている番組「欽ちゃんのニッポン元気化計画」で私たちの「農地・水・環境保全向上対策」の活動組織を取り上げ紹介していただき、欽ちゃんからの「三重県から農村を守ろう、三重県から世界へ」と温かいビデオメッセージが放映されました。



さらに午前中に行われた座談交流会の内容を映像で見ながらステージと客席で話し合う「みえの農村元気化トーク」が開催されました。「美し国おこし三重」宮本総合プロデューサーの進行で講演者の宮治さん、欽ちゃんファミリーの堀口さん、地域代表者、行政関係者7名がステージより貴重な意見を述べられたいへん参考となるトークでありました。

また、ギャラリーではこども広場において「田んぼの生きものキャラクター」作品の展示、「メダカのコタロー」劇団や「美し国」ブースで環境学習、活動の次世代へのつなぎとして関係者以外の子供やその保護者へ活動のPRとし、そしてアニメ紙芝居の公演を行い子供92名、保護者80名が楽しい環境学習を行いました。



### ～すこいやんか大賞 投票結果発表！！～

今回は、5年間の活動の集大成として、各組織で自慢できる活動をパネルで紹介した「うちのすこいやんか活動パネル展」を実施し、50活動組織から62点の応募があり、当日の参加者による投票した結果上位5組織は下記のとおりになりました。

- こころ豊かなあわの村（伊勢市）、三和集落資源エコ隊（東員町）、
- 菰野町水土里の郷の会（菰野町）、ECO轟真（東員町）、
- 大野木環境保全会（伊賀町）

三重県農地・水・環境保全向上対策協議会

## 平成23年度 農地・水・環境保全向上対策 四日市・桑名管内共同イベント「北勢地域農地水の絆」 開催

平成23年12月2日（金）に三重県四日市庁舎において、四日市・桑名管内の農地・水・環境保全向上対策に取り組む活動組織（四日市市、鈴鹿市、亀山市、菰野町、桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町）や三重県、市町、水土里ネットみえの関係者も含めて140名余りの参加者を集めて「北勢地域農地水の絆～私たちの地域での絆を深めるために～」が盛大に開催されました。

このイベントは平成21年度から農地水の絆と題して環境に関わる講演と活動の参考になりそうな活動組織の活動内容の発表を行ってきましたが、本年度は共同活動の最終年度ということで桑名管内の活動組織も参加し、共同で開催されました。

イベントは主催者代表の三重県四日市農林商工環境事務所の熊崎圭介所長の挨拶の後、新博物館整備推進室の今村隆一氏が「害虫と益虫の違いはあるの？」と題し、昆虫の生態について興味深い基調講演を行い、続いて昨年度に基調講演を行い大変好評であった東海タナゴ研究会代表の北島淳也氏が「タナゴの棲む私たちのふるさとを未来に」と題し、その後の活動などの近況報告を行いました。

休憩をはさみ、共同活動の最終年度ということで過去にみえのつどいで表彰を受けた4つの活動組織の取組みについて発表がありました。

最後に、参加者と農政局、協議会との意見交換が行われ、最終年度の活動、平成24年度以降の活動について様々な質疑応答がなされ、有意義なイベントを終了しました。

### 田光資源と環境を守る会（菰野町）

〔賞の名称〕

みえのつどい“2011”優秀活動知事賞

みえのつどい“2008”優秀活動会長賞（営農活動部門）

〔活動内容〕

- ・美しい自然、資源、環境と生態系の保全保護を目指す活動
- ・地域住民と都市住民との交流を図り地域の活性化を図る活動
- ・子供や学校との関わりにより地域の文化や貴重な資源の未来への継承を図る活動
- ・食の安全安心、地産地消、環境保全型農業の推進と産地のブランド化による地域農業の活性化を目指す活動

以上、4つの目的を掲げ活動している。



### かれがわふる里活動隊（桑名市）

〔賞の名称〕

みえのつどい“2008”優秀活動三重県土地改良事業団体連合会長賞

〔活動内容〕

生物調査で発見された希少種である「ヒメタイコウチ」や「ホトケドジョウ」の保護のための保全活動と環境保全のPR活動について行政、学校と連携して「桑名市文化祭への出展」、「田んぼの生き物観察会の開催」や小学校による田植え・稲刈りの農業体験などのイベントを開催している。

又、集落を中心とした付加価値の高い営農を目指して減化学肥料、減化学農薬栽培に取り組みブランド米や独自ブランドの日本酒等を生産している。



